

第一学年国語 前期期末テスト解答用紙

組 番 ()

一									
(五)	(四)	(三)	(二)	(一)					
エ	ヒ	弟が死んでいるので、他の人に遠慮したから。	桃	①					
	ロ		源	ウ					
ユ	郷		②						
キ			ア						
の									
ひ									
ざ									
を									
曲									
げ									
て									
棺									
に									
入									
れ									
た									
と									
き									
。									

								二	
(五)		(四)		(三)		(一)		①	
エ		く	同	見方によって二種類の違う絵に見えるという共通点。				①	
		違	じ					注目	
		っ	物					②	
		た	で					バック	
		見	も					(二)	
		え	、					ア	
		方	見						
		を	る						
		す	と						
		る	き						
		こ	の						
		と	距						
	離								
	を								
	変								
	え								
	る								
	と								
	、								
	全								

			三
(一)	画家	(二)	
		ア	三
			湖水の隅で動きを止めた水鳥
(四)	葉缶の中に	水がいつぱい入って	いるから。
(五)	息せき	(六)	比喩

四			
(一)	(二)	(三)	(二)
①	赤い	③	②
オ	ぼ	晴	街路樹
②	う	れて	が
イ	し	いる	風
③	を	ので、	に
ア	か	非常	ゆ
④	ぶ	に	れる。
ウ	る。	気持	
		ちが	
		よい。	

五		
(一)		
(9)	(5)	(1)
圈内	ふくめん	はんせん
(10)	(6)	(2)
影絵	爆撃	ばっさい
	(7)	(3)
	疎開	よつゆ
	(8)	(4)
	衛星	かくう

知	/35
思	/65
/100	

三 次の「一枚の絵」「未確認飛行物体」について、次の問いに答えなさい。【思考・判断・表現 計十八点】

④「一羽の水鳥が
ことのほか早く起きて
めづつた。
画家きどり
足を
絵筆にして。
水面に」

朝の色を配りおわると
水鳥は
湖水の隅で
動きをとめた。
③自筆の
サインのように。

木原 涼「一枚の絵」より

薬缶だつて、
空を飛ばないとはいかぎらない。
水のいつぱい入った薬缶が
夜ごと、こつこつ台所をぬけ出し、
畑の上を、
煙の上を、また、つぎの町の上を
④にちもち身をかしげて、
⑤一生けんめいに飛んで行く。
天の河の下、渡りの雁の列の下、
人工衛星の弧の下を、
息せき切つて、飛んで、飛んで、
(でももちろん、そんなに速かないんだ)
そのあげく、
砂漠のまん中に一輪咲いた淋しい花、
大好きなその白い花に、
水をみんなやつて戻つて来る。

入沢 康夫「未確認飛行物体」より

(一) ①「二羽の水鳥」を何に見立てて表現していますか。

(二) ②「水面に銀の色を配り終わると」が表現していることを次から選びなさい。

(思考・判断・表現 三点)

- ア 澄んだ水面一面に泳いだ軌跡を残すと
イ 水面をあわい光の色でぬりつぶすと
ウ 湖面全体に朝日のかげやきを届けると
エ 湖に目覚めるように知らせ終わると

(三) ③「自筆のサインのように」とありますが、「自筆のサイン」とは、何をたとえたものですか。詩の中の言葉を使つて書きなさい。

(思考・判断・表現 三点)

(四) ④「心もち身をかしげて」いる理由を述べた次の文の空らんにはまる言葉を詩の中の言葉を使つて書きなさい。

薬缶の中に () いるから。

(五) ⑤「一生けんめいに飛んでいく」とありますが、一生けんめいな様子を表現している表現をして

(思考・判断・表現 三点)

(六) ある事柄を、似たところのある別の事柄で表すことを何といひますか。

(思考・判断・表現 三点)

四 次の問いに答えなさい。【知識及び技能 計二十六点】

(一) 次の傍線部の接続する語句は、どんな働きをしますか。あとから一つずつ選びなさい。(知識及び技能 八点)

- ①全員による投票、つまり、選挙で決める。
②テレビを買った。ところが、すぐ故障した。
③ドアが開いた。すると、友達が入ってきた。
④朝から大雨だ。そのうえ風まで吹いてきた。

ア 前の内容が、後の内容の原因・理由となる。(順接)
イ 前の内容とは逆の内容が後にくる。(逆接)

ウ 前の内容と並べたり、付け加えたりする。(並列・累加)
エ 前の内容と比べたり、一方を選んだりする。(対比・選択)

オ 前の内容をまとめたり、補ったりする。(説明・補足)
カ 前の内容と話題を変える。(転換)

(二) 次の各文を例にならつて、文節に区切りなさい。(知識及び技能 九点)

例 冷たい 水を 飲む

- ①赤いぼしをかぶる。
②街路樹が風にゆれる。
③晴れているので、非常に気持ちがいい。

(三) 次の各文で正しく単語に分けられているものには○を、間違っているものには×を書きなさい。(知識及び技能 九点)

- ①電車・が・三分・遅れる。 ②夕食・は・焼き・肉・を・食・べ・た。 ③美しい・調・べ・が・会場・に・流・れ・る。

五

次の問いに答えなさい。【知識及び技能 計十点】

(一) 次の傍線部について、①～⑤の漢字の読みをひらがなで、⑥～⑩のカタカナを漢字で書きなさい。(知識及び技能 十点)

① 帆船の模型を作る ② 木の伐採 ③ 夜露にぬれる ④ 架空の話 ⑤ 覆面レスラー

⑥ バグダキを回避 ⑦ 遠くにソカイする ⑧ エイセイが軌道に乗る ⑨ 優勝ケンナイ ⑩ カゲエで遊ぶ

六

次の条件にしたがって、条件作文を書きなさい。【思考・判断・表現力 計八点】

学校の勉強は、「予習が大切だ」という人と、「復習が大切だ」という人がいます。あなたはどちらの立場ですか。次の条件にしたがって書きなさい。

(書く 八点)

【条件】

① 一六〇字以上、二〇〇字以内で書くこと。

② 二段落で構成すること。書き出しや段落の始まりは、一字下げて書くこと。

③ 段落の内容は次のようにすること。

第一段落 「おテーマについて」「予習が大切」か「復習が大切」かを書くこと。

第二段落 その理由や、理由のもとになった事例や経験を書くこと。

④ 文体を統一して、常体(だ・である調)で書くこと。また、原稿用紙の使い方に注意し、誤字・脱字のないように書くこと。

(一)

① 「1」の図から「種類の絵を見てとることができる」とありますが、なぜ同じ図が違いう絵に見えるのですか。次の文の空欄に入る言葉を書き抜きなさい。

(思考・判断・表現 四点) ※完答

同じものでも ()

() する部分を変えると、それ以外の部分は () になってしまいますから。

(二)

ア また イ すると ウ しかし エ だから オ なせなら

(三) ②、⑥、⑧段落で挙げられている三つの図について、三つの図にはどんな共通点があるといえますか。「つながらる形」で書きなさい。

(思考・判断・表現 四点)

(四)

⑨ 「このこと」とは、どういうことですか。「距離」という言葉を使い、三十五字以内で書きなさい。

(思考・判断・表現 四点)

ア 物の見え方は、人それぞれに違うもので、自分の見方だけが正しいとは思ってははいけない。
イ 物の見え方は、どう見るかによって変わってくるものだが、意識して見れば正しく見えてくるのだ。
ウ 物を見るときは、全てを知ろうとするのではなく、中心的な一面をきちんとおさえるようにしよう。
エ 物を見るときは、一面だけを見るのではなく、新しい発見につながるような別の見方としてみよう。

次の「ちよと立ち止まって」を読んで、次の問いに答えなさい。【思考・判断・表現 計十九点】

①自分ではAだと思っていたものが、人からBともいえると思われ、指摘され、なるほどそうもいえると思えられた経験は多いことだろう。

②上の図は「AとBのつば」と題されたものである。よく見ると、①の図から二種類の絵を見てとることができるはずだ。白い部分を中心に見ると、優勝カップのような形をしたつばがくつきりと浮かび上がる。このとき、黒い部分はバツクにすぎない。今度は逆に、黒い部分に注目してみると、すると向き合っている二人の顔の影絵が見えてきて、白い部分はバツクになってしまう。

③この図の場合、つばを中心に見ているときは、見えているはずの二人の顔が見えなくなり、二人の顔を中心に見ると、一瞬のうちに、目からつばの絵が消え去ってしまう。

④このようなことは、日常生活の中でもよく経験する。今、公園の池に架かっている橋の辺りに目を向けているとしよう。すると、橋の向こうから一人の少女がやってくる。目はその少女に引きつけられる。このとき、橋や池など周囲のものは全て、単なる背景になってしまう。カメラでいえば、あつという間にピントが少女に合わせられてしまうのである。ところが逆に、その橋の形が珍しく、それに注目しているときは、その上を通る人などは背景になつてしまふ。

⑤見るという動きには、思いがけない一面がある。一瞬のうちに、中心に見るものを決めたり、それを変えたりすることができるのである。

⑥上の図の場合はどうだろうか。ちよとすまして図の奥の方を向いた若い女性の絵と見る人もいれば、毛皮のコートに顎をうすめたおばあさんの絵と見る人もいるだろう。あるいは、他の絵と見る人もいるかもしれない。

⑦だれでも、ひと目見て即座に、何かの絵と見ているはずだが、そうすると、別の絵と見ることは難しい。若い女性の絵だと思つた人には、おばあさんの絵は簡単には見えてこない。おばあさんの絵と見るためには、とりあえず、今見えている若い女性の絵を意識して捨て去らなければならない。

⑧上の図を見てみよう。化粧台の前に座っている女性の絵が見えるであろう。ところがこの図も、もう一つの絵をかくしもっている。目を遠ざけてみよう。すると、たちまちのうちに、この図はどくろをえがいた絵に変わってしまう。同じ図でも、近くから見ると、遠くから見ると、全く違う絵として受け取られるのである。

⑨このことは、なにも絵に限つたことではない。遠くから見れば秀麗な富士山も、近づくとつれて、岩石の露出した荒々しい姿に変わる。□遠くから見ればきれいなビルも、近づいて見ると、ひび割れてすすけた壁面のビルだたりする。

⑩私たちは、ひと目見たときの印象に縛られ、一面のみを捉えて、その物の全てを知つたように思いがちである。しかし、一つの図でも風景でも、見方によつて見えてくるものが違う。そこで、物を見るときには、ちよと立ち止まう。他の見方を試してみよう。中心に見るものを変えたり、見るとき、他の距離を変えたりすれば、その物の他の面に気づき、新しい発見の喜びや喜びを味わうことができるだろう。

(桑原茂夫「ちよと立ち止まって」より)

(一) ①「そのときの顔を、僕は今でも忘れません。強い顔でした。」とありますが、①「強い顔」②「悲しい悲しい顔」に表れている母の

気持ちを一つずつ選びなさい。(思考・判断・表現 一点×二 計四点)

①強い顔 () ②悲しい悲しい顔 ()

ア 親戚の人の言動や、戦時下に生きる厳しさをうらく思う気持ち。
イ 親戚の人の冷たい対応にたいへん、食べ物をもたぬという気持ち。
ウ 自分の力で、子供たちを守り育ててみせると心に誓う気持ち。
エ 食べ物をもたぬ、悔しさや怒りがこみあげてくる気持ち。
オ 疎開することを親戚に断られて、不安でひどく落ち込む気持ち。

(二) ①「石釜という山あいの村です。」とありますが、「僕」は、この村の印象をどのように表現していますか。文章中から三字で書き抜きなさい。

(思考・判断・表現 三点)

(三) ②「白い乾いた」本道を、三人で山の村に向かつて歩き続けました。」とありますが、母がバスを使わなかったのはなぜですか。文章中の言葉を使って書きなさい。

(思考・判断・表現 四点)

(四) ④「そのとき、母は初めて泣きました。」とありますが、「そのとき」とは、どんなときですか。文章中の言葉を使って、二十字以内で書きなさい。

(思考・判断・表現 四点)

(五) ⑤「僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません。」に込められた思いを、次から一つ選びなさい。

(思考・判断・表現 四点)

ア 僕が弟のミルクを盗み飲んだのはひもじかったからだ。ひもじさを経験しないですむような社会にしていきたい。

イ 弟は、戦争と苦しい生活のために死んだ。自分も弟と同じように死んでいかめしれないと思うと、おそろしくなる。

ウ 弟を大人にしてあげられなかったことで、僕は一生苦しむことになるだろう。その苦しみを多くの人に理解してほしい。

エ 僕の盗み飲みが弟の死につながった罪悪感を背負っていくとともに、あのつらい体験を引き起こした戦争をにくむ。

あまり空襲がひどくなつてきたので、母は疎開しようと言いました。それである日、祖母と四歳の妹に留守番を頼んで、母が弟をおんぶして僕と三人で、親戚のいる田舎へ出かけました。ところが、親戚の人は、はるばる出てきた母と弟と僕を見るなり、うちに食べ物は無いと言いました。僕たちは食べ物をもらいに行つたのではなかつたのです。引つ越しの相談に行つたのに、母はそれを聞くなり、僕に帰ろうと言って、くると後ろを向いて帰りました。

④そのときの顔を、僕は今でも忘れません。強い顔でした。でも悲しい悲しい顔でした。僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。僕たち子供を必死で守ってくれる母の顔は、美しいです。僕はあのことばを思つて、いつも胸がいっぱいになります。

母は行つたこともない山の中の親切な人に頼んで、やつと疎開先が決まりました。とりあえず必要な荷物だけを持って、引つ越しすることになりました。それでも、荷物は馬車一台ありました。僕と母と祖母と妹、それに弟は、その馬車の荷物の上に座つて、ゆりゆり揺られながら、朝、家を出て、南に向かつて旅立ちました。福岡から南へ二十キロくらい行つた、⑤石釜という山あいの村です。

馬車の上で昼のおむすびを食べ、昼すぎには、きれいな溪流に沿つて山路へかかりました。美しい青空、桃の花が咲く山村、橋の上からはあゆの泳ぐのが見られます。生まれて初めて見る、それは桃源郷でした。

これから始まる苦しい生活など、僕にはまだわからない年ごろでした。ですから、毎日あゆとつておかずにすれば母が喜ぶだろうと思つたりして、これからの生活に胸を弾ませました。

僕たちがお世話になる農家は、すぐ裏の山が頭の上に覆いかぶさるような山すそにありました。その農家の庭に面した六畳間の一部屋を借りました。家の前の溪流には飛び石が対岸に続き、大雨の日は渡れませんでした。下流の橋を渡つて学校に行きました。

母は生まれて初めて田植えを手伝い、昼に出されるご飯を僕たちに残して、持つて帰つてきました。

僕たち疎開者には配給もありませんので、母は自分の着物を持っていき、近所の農家の人たちにお願ひして、米と交換してもらつていました。

疎開しても、ヒロユキのお乳には困りました。隣村にやぎを飼つてゐる農家があると聞いては、母が着物を、うしぎに包んで出かけました。

母の着物はなくなりました。ヒロユキをおんぶして、僕はよく川へ遊びに出かけました。僕が弟が欲しかつたのでよくかわいがりました。

ヒロユキは病氣になりました。僕たちの村から三里くらい離れた町の病院に入院しました。僕は学校から帰ると、毎日、まぎと食べ物を祖母に用意してもらつて、母と弟のいる病院に、バスに乗つて出かけました。

ヒロユキは死にました。

暗い電氣の下で、小さな小さな口に綿に含ませた水を飲ませた夜を、僕は忘れられませんでした。泣きもせず、弟は静かに息をひきとりました。母と僕に見守られて、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。

死んだ弟を母がおんぶして、僕は片手にやかん、そして片手にヒロユキの身の回りのものを入れた小さな風呂敷を包みを持って、家に帰りました。

⑥白い乾いた一本道を、三人で山の村に向かつて歩き続けました。バスがあまりましたが、母は弟が死んでいるのでほかの人に遠慮したので、三里の道を歩きました。

空は高く高く青く澄んでいました。フウインフウインというB29の独特のエンジン音がして、青空にきらきらと機体が美しく輝いています。道にもしも煙にも、人影はありませんでした。歩いてゐるのは三人だけです。

母がときどきヒロユキの顔に飛んでくるはえを手ではらいながら、言いました。

「ヒロユキは幸せだつた。母と兄とお医者さん、看護婦さんにみとられて死んだ。だから、空襲の爆撃で死ねば、みんなばらばらで死ぬから、もつとかわいそうだつた。」

家では祖母と妹が、泣いて待つていました。部屋を貸してくださつていた農家のおじいさんが、杉板を削つて小さな小さな棺を作つていてくださいます。弟は、棺が小さすぎで入りませんでした。母と僕の手でねかせました。小さな弟でしたが、母が、大きくなつていったんだね、とヒロユキのひざを曲げて棺に入れました。

④そのとき、母は初めて泣きました。

父は、戦争に行つてすぐ生まれたヒロユキの顔を、どうとも見ないままです。弟が死んで九日後の八月六日に、ヒロシマに原子爆弾が落とされました。その三日後にナガサキに――。

そして、六日たつた一九四五年八月十五日に戦争は終わりました。

⑤僕は、もしも、いつか、たことと、弟の死は一生忘れません。

(米倉 斉加年「大人になれなかつた弟たちに…」より)

令和五年九月四日実施

第一学年 国語

前期 期末テスト問題

(一年)(細)

読者の心を惹きつける物語は、作者の個性が色濃く表れる。その個性は、作者の生活経験や価値観、そしてその時代の社会状況などに影響を受ける。したがって、読者は作者の個性を理解し、その作品を通じて作者の心と向き合うことが大切である。

また、物語の構成や表現手法も、作者の個性を反映している。例えば、登場人物の描写や台詞の使い方、そして物語の展開の仕方など、作者の個性が色濃く表れている。読者は、これらの要素を注意深く観察し、作者の個性を理解しようとする必要がある。

以上のように、読者は作者の個性を理解し、その作品を通じて作者の心と向き合うことが大切である。そして、その個性を理解することで、作者の作品を通じて作者の心と向き合うことができる。これは、読者の成長や学びにつながる重要な要素である。

(細)(審)

読者の心を惹きつける物語は、作者の個性が色濃く表れる。その個性は、作者の生活経験や価値観、そしてその時代の社会状況などに影響を受ける。したがって、読者は作者の個性を理解し、その作品を通じて作者の心と向き合うことが大切である。

また、物語の構成や表現手法も、作者の個性を反映している。例えば、登場人物の描写や台詞の使い方、そして物語の展開の仕方など、作者の個性が色濃く表れている。読者は、これらの要素を注意深く観察し、作者の個性を理解しようとする必要がある。

以上のように、読者は作者の個性を理解し、その作品を通じて作者の心と向き合うことが大切である。そして、その個性を理解することで、作者の作品を通じて作者の心と向き合うことができる。これは、読者の成長や学びにつながる重要な要素である。